

(研究部門)

情報を主体的に活用し、学びを深める子どもの育成
～学びあい、伝えあい、深めあう社会科・生活科の授業づくりを通して～

大阪市立焼野小学校 研究・研修部

1. 研究主題設定の理由

情報化社会が急速に進んでいる現代社会では、子どもは、学校や家庭、そして社会でも情報を収集し、扱う機会が増えている。この状況の中で、子どもが情報活用能力を身に付けることは、現代社会を生き抜くために必要不可欠なスキルの一つであると言える。そこで、本校では、これまでも子どもの情報活用能力の育成をテーマに研究に取り組んできたが、昨年度より研究主題を「情報を主体的に活用し、学びを深める子どもの育成」として、社会科と生活科を中心に子どもの情報活用能力の育成に取り組むことにした。

2. 研究の趣旨

本校では、情報活用能力を育成する学習のプロセスを「情報の収集 → 整理 → 選択 → 表現・発信」と捉え、指導を工夫した。令和6年度の研究活動では次のことに重点を置いて取り組んだ。

- ・情報活用能力のさらなる向上を目指し、文章や図表等から必要な情報を見つけ出し、自分の考えを説明したり記述したりする力を身に付ける指導を行う。
- ・話し合いを通じて自分の考えを広めたり深めたりする活動を意図的に取り入れる。
- ・日常的にICT機器等を活用し、多様な情報を収集・選択・活用しながら情報活用能力を高める。
- ・定期的に授業研究を行い、指導力の向上を図るとともに、日常的に子ども一人一人が主体的、意欲的に取り組むことができる指導の工夫に取り組む。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 問題解決的な流れを大切にした中単元の構成と小単元の学習過程
--

子どもが情報活用能力を身に付けるようにするためには、資料を活用したり観察したりするだけにとどまらず、調べた内容を結び付けたり意味を考えたりして考えを深めたり広めたりすることができる問題解決的な学習の流れが大切であると考え。そこで、社会科・生活科の単元は、「出合う」「分かる」「生かす」の問題解決の流れで学習活動を進めるようにした。また、社会科の小単元では「つかむ」「調べる」「考える」「ひろめる」の4段階の問題解決的な学習過程を設定した。生活科については、社会科の素地を育てる部分を担うことから、社会科の学習の流れを活動に応じて取り入れてきた。

視点② 資料・教材との効果的な出合わせ方

どのような資料や教材にいつ、どのように出合わせるのかといったことは授業づくりを考えるうえで、重要な要素といえる。まず、資料や教材については、例えば、

学校の地域性にあわせて身近な地域の教材を学習に取り入れたり、子どもの実態に応じて資料を選定・作成したりすることで効果的に目標に迫ることができると考えた。

また、資料提示のタイミングについても、資料の特性に応じて、どこでどのように提示し、どんな指示をすれば最も効果的に読み取り、活用できるのかを考えて指導するようにした。

視点③「学びあい、伝えあい、深めあう」ための指導

子どもが情報と出あい、活用していく力を付けるために「学びあい、伝えあい、深めあう」授業づくりを大切にした。

まず、「言葉による表現」「文字による表現」「絵・図による表現」「表やグラフによる表現」など、子どもの「表現活動」を大切にした。

また、話し合いのスキルを高めるため、学年の実態に応じて、話型をそろえたり、聞き方、話し方の指導に取り組んだりした。「話し合い活動」では、指導者と子どもの一問一答的なやり取りから、子ども同士の対話を大切にし、集団で考えを深めることができるよう意識した。また、できるだけ計画的に整理された板書を心がけ、子どもと一緒に学習をつくり上げていくような板書やノート指導に取り組んだ。

さらに、授業の終末の「振り返り」を大切にするすることで、得た情報から「何を」「どのように考え」「そこから何を理解し」「何を見出すことができたか」等、自分の学びを客観的に見つめ直し、学びを整理したり深めたりするようにした。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ・問題解決的な流れを大切にし、単元構成と学習過程をそろえることで、主体的に教材に向き合い、問題を解決していく力や態度が子どもに身に付きつつある。
- ・資料・教材との出合わせ方を工夫することによって、「なぜだろう」「調べてみたい」という意欲を引き出すことができた。
- ・学び合い、伝え合い、深め合うための指導を工夫することで、得た情報を整理したり、分類したり、意味を考えたりしながら、個々の考えを広げ、深めることができた。

(2) 今後の課題

- ・考える活動で子どもが十分に話し合いによって思考を深めることができる時間を確保するよう授業構成を工夫する。
- ・文章やグラフ、写真などから把握した事実を自分なりに整理し、図や表などを用いてまとめる指導の積み重ねを今後も継続していく。
- ・子どもが得た情報をもとに考えを深めることができるよう、考える場面での発問や指導者の問い返しを工夫する。

これらの課題をふまえ、これまでの研究で培った実績や積み上げを大切にしながら、今後も情報を主体的に活用し、学びを深める子どもを育てる授業のあり方を探っていききたい。